



「大洗のたまり場 だまっこ」

「だまっこ」とは、大洗の言葉で「潮だまり」の意味です。「たまり場の名前を最初にみんなで考えた時に、あたたかくて、ほかほかした日だまりみたいなのがいいよね」という話しになり、地元の人たちが『じゃあ、だまっこだね』と言ってすぐに決まったんです」と、「大洗のたまり場 だまっこ」代表の大山吐志さんは話します。

地域の人たちと立ち上げたたまり場

「だまっこ」のオープンは、平成20年の5月です。大山さんは15年ほど前、水戸市にある生涯学習センターで、ボランティア活動を始めました。そこで県内から集まったボランティアの大先輩に出会い、その方たちを見



代表の大山吐志さん。

習って、地域での活動を始めたのです。「地元にとまり場を作りたいと思っていたら、たまたまこの場所を利用して一人暮らしのお年寄りに届けるお弁当を作ってくれないかという依頼がありました。週一回のお弁当づくりだけではもったいないということになり、レストランだった店舗をフル活用できるようにしました」というのがオープンのいきさつ。

「みんなの元気づくり」がテーマ

活動の内容は、ばっこカフェ、だまっこ弁当販売、無農薬野菜の販売、だまっこギャラリー、レンタルBOX。「ばっこ」は、だまっこ（潮だまり）に集まる魚の総称



子育て中のお母さんたちの生きがいづくりにもなっているレンタルBOX。ものを販売しています。

です。ばっこカフェではいつでもお茶が飲め、パソコン教室やアート教室も開催。毎週火曜日のだまっこ弁当は、一人暮らしのお年寄りに届けるお弁当と同じものを販売しています。

ボランティアスタッフの加藤泰子さん、花水真知子さんと大山さんと、お弁当の調理。



地元のお母さんたちの手作りで、新鮮な素材を生かし、冷凍食品はいっさい使わないという心のこもったお弁当です。金曜日のランチは、ワンデーシェフということで、会員の皆さんの得意料理がランチになります。こだわりの「まち子さんのばっこカレー」や、手打ち蕎麦一誠亭の「ばっこそば」などが定番の人気メニューです。スタッフは全員無償ボランティアで、登録会員は26名ほど、皆さん自分の都合のいい時間に「だまっこ」に来て活動しています。活動のテーマは、「みんなの元気づくりですね。ここに関わるみんなが元気になることが一番。お弁当を食べて元気になる人もいれば、作品を作って元気になる人もいます。食事を作るスタッフも、喜んでいただくことで元気になるります。利用者だけでなく、私たちも元気をもらっています」とのこと。

障害のある子どもたちをサポートしていきたい

今後の展開としては、「ワンファインダー」を充実させたいということです。これは特別支援学級のお子さんなど、発達障害のあるお子さんとお母さんのための教室です。「お母さんが子育てに悩み、心の病気になってしまわないように、少しでもサポートができればいいな」と思って教室を始めました。将来的にはそういう子どもたちが働ける場にしていきたいのです」と展望を話してくれました。「だまっこ」は、年齢や性別やハンディキャップや地域を超えて、ここに集う人々みんなのたまり場になっています。



御前山から届く無農薬野菜は、毎週木曜日に販売。

